

消費行動と金銭感覚における男女の違い

合田美穂（中国）

■ブランド品を好む香港の若者

2年ほど前に、新聞で興味深い記事を読んだことがあります。国際的なマーケットリサーチ会社が行ったブランド品に関する調査の結果です。その調査では、香港市民の約7割が「商標商品、いわゆるブランド品を好む」と回答しており、他の国や地域の人びとの同じ質問に対する回答を大きく上回っていたということが、印象深かったです。また、「香港人はブランド品や新製品を好む傾向が強く、それによって優越感や満足感を感じていたいという意識がとて強い」という香港の心理学者の文章を目にしたこともありました。

香港では、バッグ、小物、衣類に限らず、電気製品、自動車、通信機器なども、世界的な知名度を誇るメーカーのものが、割高であっても選ばれる傾向にあります。最近では、iPhoneを持っている人の多さにも驚かされます。iPhoneを所有している数名の若い香港人男女に、iPhoneの購入理由を聞くと、「便利だから」という理由以外に、「時代の潮流に乗っているという満足感、優越感が得られるから、高くても全然無駄なお金じゃない」という声がありました。「ブランド品、新製品にお金を注ぎ込むことは無駄ではない」と考える人が多く、それは香港人によく見られる消費行動につながっているようです。

■友人間、男女間での金銭感覚

その他にも、多くの香港人に見られる消費行動があります。それは他人に食事をごちそうすることです。日本では、他人と食事をする際の割り勘は、よく見られる光景ですが、香港では同年代の他人との食事であっても、「今日は僕が出すよ」とおごってしまうのです。次は別の人が「今日は私の番ね」といってみんなの分をごちそうします。そうやって、誰かがその場にいる全員の食事代やお茶代を出すパターンが多いのです。時には、「僕が」、「私が」みたいなやり取りになることもあります。「人にごちそうすることによって、有効にお金を利用できたと感じる」「人に喜んでもらって、満足感が得られた」となっているようです。

複数名のときは以上のようなパターンが多いのですが、男女1対1で飲食をする場合は状況が異なり、男女の態度に大きな違いが見られます。そういう状況では、たいていの香港人男性は自然に「僕がおごるよ」となります。それに対して「当然」といった態度をとる香港人女性が圧倒的に多いのです（恋人同士でなくても）。男性にとっては、「女性にごちそうする自分ってカッコいい」といった満足感が感じられ、女性にとっては「男の子におごってもらえるお姫様のような自分」を体験する構図となっているようです。知人同士でもそうなので、恋人同士なら言うまでもありません。香港人男性は、記念日にはブランド品や花束をプレゼントしたり、食事を毎回ごちそうしたりして、恋人へのお金を惜しみなく使う人が多いです。香港人男性が「女性に優しいジェントルマンである」と言

われるのも、こういう金銭感覚とも関係があるのかもしれません。